



TITLE:

<アラビア小ばなし> ムスリムの祈り

AUTHOR(S):

藤本, 勝次

---

CITATION:

藤本, 勝次. <アラビア小ばなし> ムスリムの祈り. 東洋史研究 1952, 11(5-6): 443-443

ISSUE DATE:

1952-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/138948>

RIGHT:

下に行はれる可能性もあるのであらう。

\* 太宗實錄、卷一二七、永樂二十一年十二月己酉の條。

\* 明史、卷二八一、循吏、李信圭傳。また明史、卷二六一、夏時傳に「教民條約」といふものがある。

また英宗は、天順八年三月の詔において、軍民の家に盜賊あり、すでに間斷しても改めないものは、その門に、「盜賊之家」と大書し、能く改めるものは、里老・親隣の人の保管の下に、これを除くことを許した\*。すでに宣德五年に河南知府になつた李驥が、河南に盜賊が多かつたので、火甲を設けて、盜賊の被害について一甲の連帶責任とし、且つ犯人の門に「盜賊之家」と大書したといふこと\*がある。かつて地方官の創意によつて行はれた方法を、英宗の時に廣く行はせようとしたに外ならぬのである。たゞこの方法はどの程度行はれたか全くわからない。

\* 皇明詔令卷一五、「上尊號詔」天順八年三月初二日。日知錄、卷八、「鄉亭之職」原註。

\* 明史、卷二八一、循吏李驥傳。

(附記) 皇明實錄に據つた場合は年月を示して、一々卷數を記さないことにした。(昭和二十四年二月二十七日)

# 「アラビヤ小ばなし」

## ムスリムの祈り

一人の男がお祈をあげていましたが「吾ら汝(神)に仕えまつる」と聲たからかに唱える箇所に来た時、彼は心から自分は眞に神の召使であると思ひました。しかしその時、突然神のお告がありました。「偽り者よ、汝は世の人に仕えるのみならずや」と。彼は悔悟して仲間と絶交しました。次のお祈の時、同じく「吾ら汝に仕えまつる」と唱えますと「偽り者よ、汝は己れが妻にのみ仕えいるにあらずや」とお告があり、早速離縁してしまいました。また次のお祈で船と同じ箇所に来ますと「汝、偽り者よ、仕えいるは錢のみなるに」とのお告があり、彼はそこで持金を皆寄捨しました。それから今度も「吾ら汝に仕えまつる」とお祈をあげていますと、またまた神のお告があり「汝の仕えおるは賫物のみなるに、偽り者め」と言われましたので、必要以外の餘分の賫物はみんな寄捨してしまいました。彼は心あらたにまたお祈をはじめて何時もと同じ「吾ら汝に仕えまつる」と唱えるところに来ますと、今度は神おこそかにのたまわく「汝は偽りなき誠のものぞ、汝こそ、わが眞の召使の一人なるぞよ」と。げにケッラーの神は全智なり。

Schahab ad-Din Ahmad al-Kaljonbi (1659 歿)  
の逸話集の中の一節。(藤本勝次)